

令和 2 年 6 月 27 日現在

機関番号：32306

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03767

研究課題名(和文)近代日本準専門職形成史の研究：キャリアコース・試験情報・専門性向上言説を中心に

研究課題名(英文)The process of professionalization of semiprofessions in Japan from the Meiji era to the end of World War II.

研究代表者

菅原 亮芳(SUGAWARA, AKIYOSHI)

高崎商科大学・商学部・教授

研究者番号：40348149

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：近代日本において高度の専門職とはみなされず高学歴も要求されなかった準専門的職業が専門職化されてきた過程を、各専門団体誌・情報誌、教育関係雑誌を資料とし歴史的・実証的に解明した。結果、準専門職の専門職化過程の特徴は自らの権益を死守しつつ、どのようにしてクライアントや教育的ニーズを抱いている人々によりよい処方・助産・教育実践などを提供してゆくか、その方向に向かって努力するプロセスであることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は準専門的となされた非高学歴的な職業に注目し資格化された過程を解明し、研究の空白を埋めた。また職業資格制度成立の過程を、教育分野だけでなく薬学界、看護界、会計士界等の専門情報誌にまで拡大し、トータルに正面から取り上げ、研究の空白を埋めた。さらに近代日本で資格が特に強く問われた時期とその背景は何であったかを確認すると共に、準専門職の側からみた近代日本職業制度形成過程の全体的構造を解明した。

研究成果の概要(英文)：The study examined how the semiprofessions have aimed for full professional status in Modern Japan. They required no advanced academic training and were less prestigious than the established professions. The following semiprofessions were chosen as the subject of study: pharmacy, midwifery, keiri, accounting, elementary school teaching, special support school teaching, kindergarten teaching, and school nursing. We analyzed the editorial policy, the purpose of publication, and the contents of the professional journals in these occupations and the magazines in education. Research findings confirm the professionalization of semiprofessions has been the process of providing better services to meet the needs of their clients while protecting their own rights gained at work and the benefits associated with them. The semiprofessionals may be considered to have been a group of people who would learn from practice and try to improve their daily activities to claim professional status.

研究分野：教育学

キーワード：準専門職 半専門的職業 専門職情報誌 専門職化 専門性 専門職者性

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来、コリンズ『資格社会』(1984年)、望田幸男『近代ドイツ＝「資格社会」の制度と機能』(1995年)、小山善彦『イギリスの資格履修制度』(2009年)等によって、日本の職業資格の多様性が解明された。昨今では阿形健司の一連の職業資格研究も注目される。他方、歴史的アプローチからの研究は、例えば橋本鉦市「近代日本における専門職と資格試験制度」(1992年)等、新谷康裕「近代日本における資格制度と工業化」(1996年)、辻功『日本の公的職業資格制度の研究』(2000年)等によって行われてきた。しかしこれらの研究は高度の専門職資格を研究対象として創設の経緯や発展過程を歴史的に追究するに止まっている。雑誌メディア等に基づき、「準専門職資格への学習」に対してメディアがいかなる役割を果たしたか、情報を発出した側による専門性向上に関する言説の研究は、不十分である。

(2) 大学院の高度専門職養成機関化、教職大学院の制度化、更に各学校・大学事務職員のプロフェッショナル化への法制化等、最近の中央教育審議会の審議傾向が示すのは、現代日本における各職業の専門職業化の動きである。それは日本社会全体における専門職化傾向を示すものである。

2. 研究の目的

(1) 明治以後の日本では近代化を目指して多様な職業が発生し次々と資格化された。本研究では、戦前には高度の専門職とみなされず高学歴も要求されなかった諸職業(＝準専門的ないし半専門的職業：Carr-Saunders&Wilson(1933))が資格化されて行ったプロセスを、会計士、計理士、薬剤師、産婆・助産婦、学校教員、幼稚園保姆、学校看護婦等について確かめる。

(2) 上記各諸職業に関する専門雑誌、団体史、受験雑誌、進学案内書、職業案内書等のメディアを通じて、キャリアコース・試験情報はどのように伝えられたか、それと併行して情報を発出した側は、専門性向上に関してどのような言説を話し続けたかを実証的に検討する。対象とする準専門職の範囲が広範であるため、研究分担者は、教育史学者に限定しない。広く関連分野の研究者に協力を求め、学際的に組織運営する。

3. 研究の方法

(1) 平成28年度は、研究の性格上、かなりの拡がりをもつ作業となったので、取り上げる諸職業分野における資格制度形成過程を歴史的に展望し、メンバー同士で共有した。それと並行した作業として、基礎的資料の収集の段階とそれらを使った内容的研究の2段階に分けた。まず前者を研究代表者及び研究分担者等全員で固め、その作業にあてた。

(2) 平成29年度は、前年度の作業を踏まえ、申請書の「研究目的」に列挙した2つの観点から以下のように研究を展開した。各種雑誌等を研究対象として歴史的分析を行う。取り上げる諸職業分野のどのような雑誌メディアを対象とするかは前年度の調査を踏まえ、各種雑誌の歴史分析を行う前提として、準専門的職業の資格整備過程を展望しメンバー同士共有した。各雑誌メディアを、各担当者は、研究目的に則して(ア)各資格制度の拡大・普及過程はどのように伝えられたか、(イ)キャリアコース・試験情報はどのように伝えられたか、(ウ)情報を発した側は、専門性向上に関してどのような言説を話し続けたか、という3つの観点から、各専門メディアの記事を選び出し、データベースを作成し、次年度に備える。近代高等教育史研究の専門研究者を選び研究連絡会に講師として招待し、資格の制度化過程とメディアの歴史、情報の発信者・受け手等について専門講義を依頼した。

(3) 平成30年度は研究の折り返し年度と位置づけ、過去2年間の中間総括を行う。成果を、日本

教育学会等において発表した。前年度までの対象雑誌の内容分析を深化し研究を展開した。本研究のように研究テーマが広く、かつメンバーの所属が多岐にわたる共同研究の場合には、その求心力を確保し、テーマの一貫性を保持することが難しい。本研究では、それを避けるため、研究連絡会を頻繁に行った。

(4) 平成31年度は(1)～(3)の研究成果を集成し、最終報告書の刊行をめざした。「研究成果公開促進費」の助成を申請した。

4. 研究成果

(1) 本研究は、職業資格制度成立の過程を正面からトータルに取り上げる。そのために、資料を教育分野だけでなく薬学界、看護界、会計士界等の専門情報誌メディアにまで拡大し、それらが伝える情報を分析している。これだけでも研究の空白を埋める仕事となると確信した。なぜなら近代日本における「準専門職」形成過程研究は、圧倒的に不足しているからである。これまでの先行研究は、本研究が目指すプロフェッショナル化のプロセス、形成過程にまで踏み込んでいない。また、semi-Professionsの研究においては、第二次世界大戦後の若干の外在的な研究があるものの、専門職化過程に関する研究は皆無に等しい。専門情報誌や教育関係雑誌メディアに基づき、「準専門職資格への学習」に対して雑誌メディアがいかなる役割を果たしたか、情報を発信した側による専門性向上言説はどのようなものであったかの研究も全く不十分であった。本研究は準専門的ないし半専門的とみなされた非高学歴的な職業に注目し、資格化された過程を解明し、従来の研究の空白を埋めたものである。また本研究では、これまで全く取り上げられなかった職種すなわち薬剤師、産婆・助産婦、計理士、会計士、「特殊児童」を扱う「学校」教員、学校看護婦を取り上げている。さらに、専門性の基盤となる同資格集団がどのように形成されたか、マニフェストや綱領やミッションの声明がどのように行われたかを検討している。すなわち専門性の形成に不可欠の、プロフェッショナルリティ自覚の歴史にも解明を進めている。

(2) 主たる方法としては、専門情報誌分析としては、先にもふれたように、専門情報誌などのメディアに着目した。専門職者が組織を形成したり立法を要求したりする過程においては、専門職としてのミッションを発したり、ステータスの共通認識を確認し共有することが重要になる。そのプロセスを解明する素材は、雑誌以外にはないと見られるからである。

(3) ただしその際、3つの歴史的視点を設定することが重要になると考えた。第1は、専門職化への志向に関する諸情報を伝えるメディアは多種多様であるとともに、集積された情報の内容は、メディアの性格と密接に関係している。従って情報の性格を解明するためには、そのメディアの発刊理由、編集主体、読者層等を検討する必要がある。すなわちメディアの特性を描き出すことが、専門職化志向情報の内容を正確に解釈する前提となる。第2は、メディアが伝える専門職化志向情報の質の考察である。いったいどのような情報が提供され、どのように変化したか、情報選択とその変容実態を実証的に解明するのも本研究のねらいの一部である。加えて、ROOSのいう marginal profession および Para profession の専門職化過程は、高等教育の整備と不可分で、高等教育機関における学習の長期化が課題となった。これに鑑みれば、この研究にとって近代日本高等教育史研究を常に視野に入れておくことは重要なことである。日本近代大学史の専門家を研究協力者に迎えるなど、この点にも大いに意を注いだ。第3に、メディアは準専門職が専門職化しようとする際、志願者の志(こころざし)の所在と志の実現との中間に位置する。それはおのずから、準専門職者たちの専門職化への志向性や動機、そして現実の人々の姿を映し、本研究においては、そのメディアを体系的・実証的に精査したい。

(4) 編集した最終報告書の目次構成は以下の通りである。

序章 ... 菅原亮芳

第 部 新専門職の誕生と形成

第 1 章 薬剤師 - 『薬剤誌』 - (小口江美子)

はじめに / 第 1 節 制度と団体 (1)法制度の展開 (2)職能団体としての東京薬舗会から東京薬剤師会へ / 第 2 節 『薬剤誌』の書誌的検討 (1)先行研究について (2)発行状況 (3)発刊の趣旨 (4)編著者と発行所 (5)目次構成 (6)読者層と発行部数 / 第 3 節 『薬剤誌』に見る薬剤師の専門性向上言説の特質 (1)医薬分業運動を支えた担い手たちの言説 (2)薬剤師の「職権情報」 / むすび

第 2 章 産婆・助産婦 - 『助産之葉』 - (依積田ゆかり)

はじめに / 第 1 節 制度史的展望(時期区分) / 第 2 節 『助産之葉』の書誌的検討 (1)『助産之葉』の発刊状況・発行人 (2)緒方正清(元禄1年・1864年 - 大正8年・1919年)という人物 (3)『助産之葉』の欄構成と記事数 (4)「論説」と「実験」の記事分類 / 第 3 節 『助産之葉』に見る助産教育情報の特質とその変化について (1)助産婦の助産論について (2)助産婦の知識・技術について / むすび

第 3 章 会計士 - 『會計』 - (後藤小百合)

はじめに - 問題の所在および先行研究 - / 第 1 節 雑誌『會計』の発刊意義 / 第 2 節 雑誌『會計』発刊前史 / 第 3 節 計理士法成立について / 第 4 節 計理士法改正運動について / 第 5 節 計理士制度改正運動の契機となった具体的内容 / 第 6 節 計理士の実状と計理士法改正運動 / 第 7 節 公認会計士制度の設立 / むすび - 計理士(会計士)制度確立の発展過程 -

第 4 章 計理士 - 『計理士』 - (淵上勇次郎)

はじめに / 第 1 節 職業会計人 - 「専門職」とは何か / 第 2 節 制度と団体 / 第 3 節 「計理士」について、雑誌『計理士』から / むすび

第 部 「学校」教員の資格と専門性

第 1 章 教職の黎明と学校教員 - 雑誌が語る師匠から教員へ - (吉野剛弘)

はじめに / 第 1 節 制度と団体 (1)師範学校制度の変遷 (2)教員の待遇 (3)自由民権運動への制限と教員 (4)教員の状況 / 第 2 節 書誌的検討 (1)本研究で収集しえた雑誌・記事 (2)主要な雑誌の書誌的検討 / 第 3 節 内容 (1)内容による記事の分類 (2)記事内容の特徴 / むすび

第 2 章 「特殊児童」と教員 - 『教育実験界』 - (下山寿子)

はじめに / 第 1 節 「学校」教員資格制度の成立の歩みと「特殊児童」への関心 / 第 2 節 雑誌『教育実験界』の書誌的検討 / 第 3 節 「特殊児童」情報の内容分析 (1)「特殊児童」とは何か (2)時期区分とその内容 / むすび

第 3 章 幼稚園保姆 - 『婦人と子ども』 - (高瀬幸恵)

はじめに / 第 1 節 制度と団体 (1)幼稚園保姆の資格と待遇 (2)フレーベル会の発足と日本幼稚園協会への発展 (3)幼稚園制度および保姆待遇改善に関する建議 / 第 2 節 書誌的検討 (1)発刊当初の誌面構成 (2)「保育者のため」欄の登場 (3)「質疑応答」/「保育問答」欄の登場と「子ども」欄の後退 (4)保姆のための機関誌としての性格の確立 / 第 3 節 内容 (1)明治後期における幼稚園教育と保姆の専門性に関する議論 (2)明治末期から大正期における保育者論の展開 - 第 11 巻以降 - / むすび

第 4 章 学校看護婦 - 『養護』 - (釜田史)

はじめに / 第 1 節 学校看護婦の資格制度 (1)学校看護婦の誕生 (1905<明治 38>年～1921<大正 10>年) (2)学校看護婦制度の整備 (1922<大正 11>年～1940<昭和 15>年) (3)学校看護婦から養護訓導へ (1941<昭和 16>年～1946<昭和 21>年) / 第 2 節 雑誌『養護』の書誌的検討 (1)雑誌『養護』の創刊 (2)帝国学校衛生会と大西永次郎 (3)全国学校看護婦大会と学校看護婦講習会 / 第 3 節 雑誌『養護』における学校看護婦の専門性に関する言説 (1)「教師」としての学校看護婦に求められた専門性①＝人格の練磨と知識の修養 (2)「教師」としての学校看護婦に求められた専門性②＝「学校という職場」における特殊性への適応 (3)「教師」としての学校看護婦に求められた専門性③＝「教育学」を学ぶこと / むすび

終章 ... 菅原亮芳 船寄俊雄

(5) 結果として準専門職の専門職化過程の特徴は、自らの権益を死守しながら、どのようにしてクライアントや教育的ニーズを抱いている人々に、よりよい処方・助産・教育実践などを提供してゆくか、その方向に向かって努力するプロセスであることがわかった。そのためには、より具体的には 自律性を点検しつつ専門職団体を組織し、待遇改善、政策に対する資格や能力を保証する法律などへの意見提示の必要性などを実践から得られた知見を基に情報化することが重要であるということ、専門情報誌は の事柄を広報する役割と同時に会員が専門的知識・技能の獲得や倫理性の育成など自己研鑽の機会となる情報を提示すること、医師と薬剤師などの連携関係と相互批評の重要性を伝えること、団体にあるいは専門情報誌を発行する母体に所属し自らのキャリアコースやミッションを確認し、自覚してゆく情報を提示することなどが、重要な共通基準であることがわかった。これらの事柄はクライアントや教育的ニーズを抱く人々の現状に気付き、理解し、何が問題であり、何をどのような技術をもって改善するのかを考えた上ではじめて気付くものである。それだけでなく、その実践がその人々にどのような意味があるのかを寄り添いながらケアすることこそが準専門職が専門職に近づいてゆく重要な要因と解釈できる。専門職が理論を実践に当てはめて検証し再構築してゆく人々であるとするならば、準専門職は実践から学び、反省し、その実践の改善に努力しようとする、一群の人々であると考えられる。

主要引用・参考文献

辻功『日本の公的職業資格制度の研究 - 歴史・現状・未来』(日本図書センター、2000年) / 石村善助『わが国のプロフェッション』(至誠堂、1969年) / 百合野正博「わが国の公認会計士像と『プロフェッション』の基本的特長」(『同志社商学』第65巻第5号、2014年) / 天野正子「専門的職業」(日本教育社会学会編『新教育社会学辞典』(東洋館出版社、1986年、576-577頁) / 天野正子「専門職化をめぐる教師の意識構造」(『教育社会学研究』第24巻、日本教育社会学会、1969年) / Edgar F. Borgatta Rhonda J.V. Montgomery『Encyclopedia of Sociology』(Macmillan Reference USA、2000、2259～2260頁) / 橋本鉦市『専門職養成の制作過程』(日本図書センター、2008年) / 橋本鉦市『専門職の日本的構造』(玉川大学出版部、2009年) / 橋本鉦市『専門職の報酬と職域』(玉川大学出版部、2015年) / 竹内洋「準・専門職としての教師」(『ソシオロジ』第17巻第3号、日本社会学会、1972年) / 三井宏隆・篠田潤子の「プロフェッションの社会心理学」(『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要・社会学心理教育学』63、慶應義塾大学大学院社会学研究科、2006年) / 拙稿「準専門職の基本的特徴と日本の教員の専門職論の系譜・序説」(『高崎商科大学紀要』第31号、2016年) / 中野秀一郎『プロフェッションの社会学』(木鐸社、1981年)等

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 小口江美子	4. 巻 79 (6)
2. 論文標題 明治期の薬剤師専門職化形成過程を探る一つの手掛かりとしての『薬剤誌』第46号（明治26年4月6日発行）について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 昭和学会雑誌	6. 最初と最後の頁 778 - 788
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下山寿子	4. 巻 無
2. 論文標題 明治後期における「教育病理学」の移入とその意味展開に関する研究 - 雑誌『教育実験界』に掲げられた藤代禎輔・浅石長雄（東嶺）の記事をめぐって -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2019年度 検証・教育実習 - 教職課程年報 -	6. 最初と最後の頁 95 - 106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤小百合	4. 巻 第33号
2. 論文標題 職業会計人（計理士）制度の確立 - 雑誌「會計」を通してみた模索 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 高崎商科大学紀要	6. 最初と最後の頁 105 - 120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 下山寿子	4. 巻 -
2. 論文標題 近代日本準専門職（「特別支援教員」）形成史研究（3） - 伊澤修二の「吃音矯正教師」養成を手がかりに -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2018年度検証・教育実習 - 教職課程年報 -	6. 最初と最後の頁 78 - 84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原亮芳	4. 巻 第32号
2. 論文標題 『一橋専門部教員養成所史』にあらわれた中等商業教員の専門職化過程に関する小考(1) - [研究ノート]・「一橋」の論争や事件の特色と変化に着目しつつ -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 高崎商科大学紀要	6. 最初と最後の頁 67-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 淵上勇次郎	4. 巻 第32号
2. 論文標題 「計理士」に関する若干の考察 - 専門雑誌『計理士』にみる「計理士」像 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 高崎商科大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高瀬幸恵	4. 巻 第12号
2. 論文標題 明治期の女性教育者に期待された資質と役割 - 幼稚園保姆を中心に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教職課程年報	6. 最初と最後の頁 155-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉野剛弘	4. 巻 第15号
2. 論文標題 雑誌を通じた教員研修：雑誌『小学校』特別増刊号を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京電機大学総合文化研究	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下山寿子	4. 巻 第32号
2. 論文標題 近代日本準専門職（「特別支援教員」）形成史研究（2）-教育総合雑誌『教育実験界』 何故、このメディアに着目するのか-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 高崎商科大学紀要	6. 最初と最後の頁 55-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石渡尊子	4. 巻 50号
2. 論文標題 「琉球大学の創設期における普及事業 - 家政学のあり方を考察するために -」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 家政学原論研究	6. 最初と最後の頁 10-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅原亮芳	4. 巻 第31号
2. 論文標題 「準専門職の基本的特徴と日本の教員専門職論の系譜・序説 - 先行研究の紹介と整理を通して -」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 高崎商科大学紀要	6. 最初と最後の頁 145 - 157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下山寿子	4. 巻 第31号
2. 論文標題 「産婆（助産婦）に見る生命尊重の専門性、倫理性・自律性に関する史的考察 - 近代日本における準専門職形成史の研究（1） -」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 高崎商科大学紀要	6. 最初と最後の頁 135 - 143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 菅原亮芳（企画者）、船寄俊雄（司会者）、菅原亮芳・小口江美子・依積田ゆかり・後藤小百合・船寄俊雄（報告者）、下山寿子・釜田史（指定討論者）
2. 発表標題 近代日本準専門職形成過程の総合的研究 - 専門誌『薬剤誌』『助産之葉』『會計』を手がかりに -
3. 学会等名 日本教育学会第77回大会ラウンドテーブル
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	後藤 小百合 (Goto Sayuri) (20458459)	高崎商科大学・商学部・教授 (32306)	
研究分担者	下山 寿子 (Simoyama Toshiko) (30287908)	高崎商科大学・商学部・教授 (32306)	
研究分担者	高瀬 幸恵 (Takase Yukie) (30461792)	桜美林大学・心理・教育学系・准教授 (32605)	
研究分担者	船寄 俊雄 (Funaki Toshio) (40181432)	神戸大学・人間発達環境学研究所・教授 (14501)	
研究分担者	石渡 尊子 (Ishiwata Takako) (40439055)	桜美林大学・健康福祉学群・教授 (32605)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小口 江美子 (Oguchi Emiko) (50102380)	昭和大学・大学共同利用機関等の部局等・特任教授 (32622)	
研究分担者	釜田 史 (Kamata Fumito) (60548387)	愛知教育大学・教育学部・講師 (13902)	
研究分担者	山本 朗登 (Yamamoto Akito) (60611704)	山口芸術短期大学・保育学科・講師 (45506)	
研究分担者	淵上 勇次郎 (Fuchigami Yujiro) (70173507)	高崎商科大学・商学部・教授 (32306)	
研究分担者	俵積田 ゆかり (Tawaratumita Yukari) (70568857)	昭和大学・保健医療学部・准教授 (32622)	
研究分担者	吉野 剛弘 (Yoshino Takehiro) (90369893)	埼玉学園大学・人間学部・准教授 (32421)	